

企業対象の生物多様性・SDGs 教育手法の開発と実施

○中山孝志、饗場葉留果、湊秋作((一社)ヤマネ・いきもの研究所)
小堀洋美 ((一社)生物多様性アカデミー)
早勢弘一、佐藤正美(ワンアソシエイツ)
邑並直人(経団連自然保護協議会)
加藤拓(損害保険ジャパン(株))・谷口雅保(積水化学工業(株))

キーワード：企業人、生物多様性教育、体験、メソッド、企業緑地の活用

1. 目的・方法・実施概要

社会を取り巻く様々な環境課題がビジネスに大きな影響を与える現在「企業人材の育成」は、生物多様性主流化を図る上で大きな効果を持つため、「企業人対象の環境セミナー」を行った。本セミナーで目指す企業人材像を「持続可能な企業経営に資する人」「地域と地球社会の持続性について考える人」「多様な企業人とのネットワークを築ける人」とした。そのために育成する資質を7つに整理し、7つのメソッド（体験×座学×ふりかえり×ICT×ワークショップ×アンケート×相談コーナー）を用い計8回実施した（表1）。今回は「体験」に重点を置いたセミナーを中心に報告する。体験フィールドは豊かな生物相が存在する田んぼ・森、そして、OECM候補地の企業緑地を選んだ。いきもの「体験」に重点を置いたセミナーではいきものに触れて生きる工夫を学び、生物多様性保全の必要性などを講義した。次に体験と講義の学びをふりかえり、いきもの・生物多様性の自分事化を行った。さらにふりかえりを他の参加者と共有し、再度、ふりかえることで学びを深めた。

表1 企業人対象の環境セミナー年間実施内容

実施月	種類	場所	内容	参加者数
6月	オンライン	-	講義：涌井、小堀教授	70
7月	体験	山梨県八ヶ岳	田んぼ、森での自然体験	8
8月	オンライン	-	報告：環境省、積水化学	69
9月	体験	東京二子玉川	商業施設内都市公園生物調査	21
10月	オンライン	-	報告：清水建設、サントリーホールディング	89
11月	体験	東京日野	ジョビントモール内ビオトープ観察	22
23年1月	ワークショップ オンライン	-	自分事化、自社化に向けて①	13
2月	ワークショップ	東京	自分事化、自社化に向けて②	8

参加者のふりかえりシートをKH-Coderで分析・評価した。参加者からは「生物多様性を理解し、自分へつなげることが出来ていること」、「体験に参加することに意義を感じる」などの評価を得た。また、同じ価値観や意思を持った方々とのワークショップを通じて、アイデアや啓発を受けたという声があった。これらの評価はふりかえりなど今回のセミナーのプログラムデザインによる効果が大きいと考えられた。

2. まとめ

リーダーが環境課題に取り組むには心の支えが必要で、その支えが「知識の蓄積」と「自然に触れる経験」の両輪であった。参加者は「体験」で生物多様性を体感し、知識と結び付けた。また、参加者がふりかえりとワークショップを通して関係性を築くことで企業間、業種を超えた環境課題の解決につながると思われる。今後より体験に重点を置いたセミナーを開催し、新たな手法も目指す。